



BELLKUTE

登録番号 第18821号

種類名 イミノクタジンアルベシル酸塩水和剤
iminoctadine tris (albesilate)

殺菌剤分類 M7

性 状 類白色水和性粉末 45 μm以下

有効年限 5年

有効成分 イミノクタジンアルベシル酸塩 40.0%

毒 性 普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)

包 装 (100g×25袋) × 4箱、500g×20袋

■特 長

1. 幅広い抗菌スペクトラムを有し、多くの病害に対して優れた予防効果を発揮します。
2. 作物に対する安全性が高く、登録作物が多いため使いやすい薬剤です。
3. 細胞膜に作用し、膜機能や脂質合成を阻害します。また、他剤と作用点が異なるため各種の薬剤耐性菌に対しても高い効果があります。

最新の登録内容、
SDSはこちら

■適用病害名及び使用方法

(2024年12月25日現在)

作物名	適用病害名	希釈倍数 (倍)	使用液量 (ℓ/10a)	使用時期	本剤の 使用回数	イミノクタジン を含む農薬の 総使用回数	使用方法
りんご	黒星病 斑点落葉病	1,000～ 2,000	200～ 700	収穫前日 まで	6回以内 〔但し、 開花期以降 散布は 3回以内〕	8回以内 〔液剤及び水和剤 は合計6回以内 (開花期以降 は3回以内)、 塗布剤は2回以内〕	散 布
	輪紋病 褐斑病 すす点病 すす斑病 黒点病	1,000～ 1,500					
	うどんこ病 黄腐病	1,000					
なし	黒斑病 黒星病 輪紋病 うどんこ病	1,000～ 1,500		収穫14日前 まで	5回以内	5回以内 〔塗布剤は2回以内〕 〔液剤は1回以内〕	
もも	黒星病	2,000		収穫前日 まで	3回以内	3回以内 〔休眠期は1回以内〕	
	灰星病 うどんこ病 ホモプシス腐敗病 すすかび病 果実赤点病	1,000～ 2,000					
おうとう	灰星病	1,000		収穫7日前 まで		3回以内	
みかん	灰色かび病 そうか病	1,000～ 2,000		収穫前日 まで		2回以内	
かんきつ (みかんを除く)	貯蔵病害(緑かび病)	2,000					
かき	炭疽病 落葉病 うどんこ病 灰色かび病 すす点病 黒星病	1,000～ 1,500		収穫14日前 まで	3回以内	3回以内	
キウイフルーツ	果実軟腐病 灰色かび病 貯蔵病害 (灰色かび病)	1,000	収穫前日 まで	5回以内	5回以内		

作 物 名	適用病害名	希 釈 倍 数 (倍)	使用液量 (ℓ / 10a)	使用時期	本剤の 使用回数	イミノクタジン を 含 む 農 薬 の 総 使 用 回 数	使用方法		
マンゴー	炭疽病	1,000	200 ～ 700	収穫14日前 まで	2 回以内	2 回以内	散 布		
あ け び (果 実)	うどんこ病	3,000							
小粒核果類 (うめ、すもも を除く)	黒星病 灰星病 灰色かび病 環紋葉枯病	2,000		収穫30日前 まで	3 回以内	3 回以内			
う め	すす斑病 枝枯病								
す も も	灰星病	1,000 ～ 2,000		収穫 3 日前 まで					
び わ	灰斑病 灰色かび病	1,000	4	収穫 7 日前 まで			無人航空機 による散布		
		10							
キャベツ	菌核病	1,000	100 ～ 300	収穫14日前 まで	4 回以内	4 回以内	散 布		
す い か	菌核病 炭疽病			収穫前日 まで				5 回以内	5 回以内
	メ ロ ン								
か ぼ ち ゃ	うどんこ病			1,000 ～ 2,000	収穫 7 日前 まで	4 回以内		4 回以内	
ズッキーニ		2,000		収穫前日 まで	7 回以内	7 回以内			
きゅうり	褐斑病	2,000 ～ 4,000	収穫 3 日前 まで				5 回以内	5 回以内	
	う り 類 (漬 物 用)			うどんこ病 炭疽病 つる枯病					
な す	すすかび病 灰色かび病 うどんこ病	3,000		収穫前日 まで	3 回以内	3 回以内	散 布		
アスパラガス	茎枯病 斑点病 褐斑病	1,000	100 ～ 500	収穫 7 日前 まで	5 回以内	5 回以内			
たまねぎ	灰色かび病 灰色腐敗病 小菌核病		100 ～ 300	収穫前日 まで					
ね ぎ	さび病 黒斑病	2,000		収穫30日前 まで	3 回以内	3 回以内			
	にんにく	葉枯病						1,000 ～ 1,500	収穫 3 日前 まで
にんじん	菌核病	1,000		乾燥種子 重量の0.5%	は種前	1 回	5 回以内 〔種子粉衣は1回 以内、無人航空機 散布は2回以内〕	種子粉衣	
	黒葉枯病	500 ～ 1,000							
		－							
ト マ ト	葉かび病	3,000 ～ 6,000	100 ～ 300	収穫前日 まで	3 回以内	3 回以内	散 布		
ミニトマト	灰色かび病	6,000			2 回以内	2 回以内			

作 物 名	適用病害名	希釈倍数 (倍)	使用液量 (ℓ/10a)	使用時期	本剤の 使用回数	イミノクタジン を含む農薬の 総 使 用 回 数	使用方法
レ タ ス	灰色かび病 菌核病	1,000～ 2,000	100～ 300	収穫14日前 まで	3回以内	3回以内	散 布
い ち ご	炭疽病	1,000		育苗期 (定植前)	5回以内	10回以内 〔育苗期は5回以内 本圃では5回以内〕	
	うどんこ病	4,000		収穫前日 まで (生育期)	5回以内		
		1,000		収穫7日前 まで	3回以内	3回以内	
豆類(種実) (ただし、だいず を除く)	炭疽病 褐斑病	1,000			5回以内	5回以内 〔種いもへの処理 は1回以内 無人航空機散布 は3回以内〕	種いも 粉衣
ばれいしょ	夏疫病	500			1回		
やまのいも	葉渋病	1,000～ 2,000	種いも 重量の1%	植付前	1回	〔種いもへの処理 は1回以内 無人航空機散布 は3回以内〕	種いも 粉衣
	青かび病	—					
茶	炭疽病 輪斑病 新梢枯死症 (輪斑病菌による)	1,000	200～ 400	摘採7日前 まで	2回以内	2回以内	散 布
た ば こ	赤星病 うどんこ病 灰色かび病	1,000～ 2,000	100～ 180	収穫10日前 まで			
樹 木 類	炭疽病	1,000	200～ 700	発病初期	3回以内	3回以内	

△ 効果・薬害などの注意 (※)

1. 本剤はイミノクタジンを含む農薬であるので、他のイミノクタジンを含む農薬の使用回数と合わせ、作物ごとの総使用回数の範囲内で使用してください。
2. りんごに使用する場合、芽出し2週間過ぎから落花後25日ごろまではさび果を生じるおそれがあるので、この時期の散布はさけてください。
3. なしに使用する場合、西洋なし品種ル レクチエではさび果を生じるので使用しないでください。
4. ももに使用する場合、缶桃14号等の缶詰用品種では葉に葉斑を生じるので使用しないでください。
5. おうとうに使用する場合、着色始期から中期の散布では薬害（着色障害）が生じるおそれがあるので使用しないでください。
6. かきに使用する場合、西村早生では葉に葉斑を生じるので使用しないでください。
7. メロンに使用する場合、交配2～3日前から交配2週間後までの幼果の時期には、薬害を生じるおそれがあるので、この時期の散布はさけてください。また、若葉への散布や高温時の散布では、薬害を生じることがあるので注意してください。
8. キャベツに使用する場合、浸透性を高める効果のある一部の展着剤を混用すると、薬害を生じる場合があるので、展着剤混用に当たっては事前にその適否を確認してください。
9. ばらに対して薬害を生じるので、かからないように注意して散布してください。
10. 蚕に対して毒性があるので、桑にかからないように注意して散布してください。
11. 散布量は対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法に合わせ調節してください。
12. 無人航空機による散布を行う場合には、次の注意事項を遵守してください。
 - (1) 散布機種種の散布基準に従って行ってください。
 - (2) 散布機種種に適合した散布装置を使用してください。
 - (3) 散布中に薬液の漏洩がないよう、事前に機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行ってください。
 - (4) 散布薬液の飛散によって他の動植物等に影響を与えないよう、散布区域の選定に注意するとともに、散布区域内の諸物件に十分留意してください。
13. 使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。

14. 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
15. 適用作物群に属する作物又はその新品種に初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病虫害防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。

⚠ 安全使用上の注意

16. 誤飲、誤食などのないよう注意してください。
17. 眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
18. 皮ふに対して弱い刺激性があるので皮ふに付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。
19. 薬液調製時および使用の際は保護メガネ、農薬用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするともに衣服を交換してください。
20. 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
21. かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
22. 街路、公園などで使用する場合は、散布中および散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜などに被害を及ぼさないよう注意を払ってください。

水産動植物への影響：水産動植物（藻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意してください。使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

保管：密封し、直射日光をさけ、食品と区別して、小児の手の届かない冷涼・乾燥した場所に保管してください。

【農薬をご使用の際は】

- 使用前にはラベルをよく読んでください。
- ラベルの記載以外には、使用しないでください。
- 小児の手の届く所には、置かないでください。
- 空容器・空袋は圃場などに放置せず、適切に処理してください。